

過去のスタディツアー参加者へのアンケート結果 報告書

本資料は、これからのスタディツアーのあり方の参考とするために、過去に実施したスタディツアーの参加者及び参加者の保護者を対象として、以下の要領でアンケートを実施した結果を取り纏めたものである。

1. アンケートの方法

*アンケートの実施時期 : 2016年10月～11月

*アンケートの対象者 : 以下のスタディツアーの参加者及びその保護者

- ・平成25年度の水俣市へのスタディツアー
- ・平成25年度の対馬市へのスタディツアー
- ・平成27年度の対馬市へのスタディツアー

(以下、上記3つのスタディツアーのいずれかのツアーの参加者を単に”ST参加者”という。)

*アンケートの方法 : アンケート用紙の郵送及び回答書の郵便による回収

2. アンケートの郵送及び内容

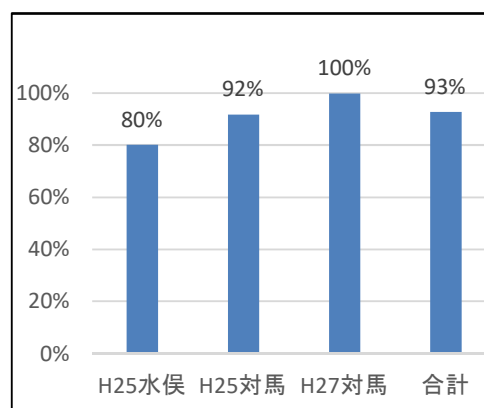
アンケートはスタディツアーに参加した小学生及び中学生向けの【A票】と、保護者向けの【B票】を同封して郵送した。なお、子供たちとともにスタディツアーに参加した保護者に加えて、子供たちを送り出して参加しなかった保護者にも同じ質問用紙にて回答して貰った。(送付したアンケート用紙は”添付資料-I”を参照。)

3. アンケートの回収

アンケート用紙の回収状況は以下の通りである。

回答書は郵送した27件中25件回収し、回収できなかったのは2件であり、回収率は全体で93%に達し、良好であった。

	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計
参加者数	5	12	10	27
回答数	4	11	10	25
回答率	80%	92%	100%	93%



4. アンケート結果

アンケート中の各項目に対する回答結果の全体は、下記の添付資料に示す通りである。

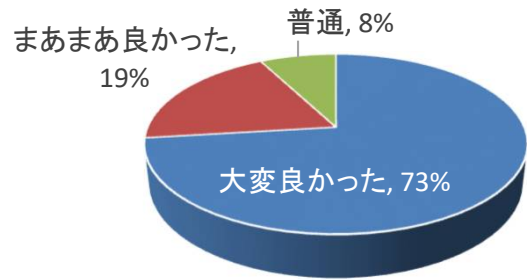
- ・添付資料-II H28年度STアンケート回答(A票)集計表
- ・添付資料-III H28年度STアンケート回答(A票第5項及び第6項)集計表 添付省略
- ・添付資料-IV H28年度STアンケート回答(B票)集計表

以下、参加した子供向けのA票及び保護者向けのB票の各項目の質問につき、回答集計結果について述べる。

4.1 A票(第2項)～満足度

『それぞれのスタディツアーに参加して良かった・楽しかったと思いますか?』という質問に対する回答は以下の通りである。

1. たいへん、良かった(楽しかった)。	19
2. まあまあ、良かった(楽しかった)。	5
3. 普通	2
4. それほどでもなかった。	0
5. よくなかった。	0

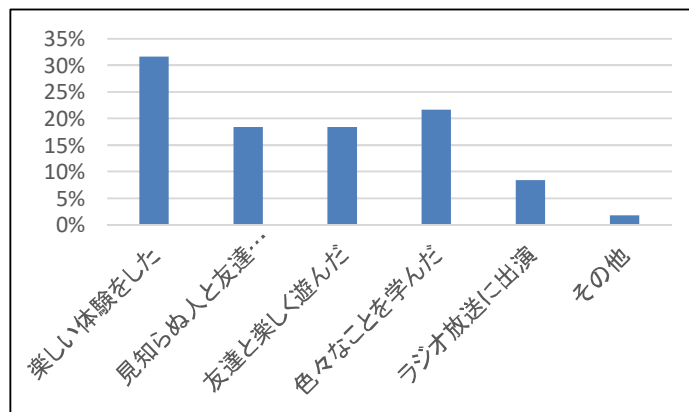


ST参加者全体で大変良かった(楽しかった)という回答が全体の73%を占め、これにまあまあ、良かった(楽しかった)という回答(19%)を加えると全体で92%の参加者に高評価を得たことになる。

4.2 A票(第3項)～満足の理由

『スタディツアーに参加し何が良かった(楽しかった)ですか?』という満足の理由の問い掛けに対する回答は以下の通りであった、(複数回答)

項目	回答数	比率
1. 楽しい体験をしたこと	19	32%
2. 見知らぬ人と友達になったこと	11	18%
3. 友達と楽しく遊んだこと	11	18%
4. 行き先のいろいろなことを学んだこと	13	22%
5. ラジオ放送に出演したこと	5	8%
6. その他()	1	2%



「楽しい体験をしたこと」という回答が全体の32%を占め、最も多かったが、他の回答項目に比べて突出しているとは見なせず、「楽しい経験」、「友達化」、「楽しく遊んだ」、「いろいろ学んだ」などの項目とほぼ肩を並べたと言える。

スタディツアーの性格上、学習面を多く取り入れたツアー内容となっており、ツアーが少し堅苦しくなっていると受け取られているのではないかという懸念もあったが、同世代の子供たちと寝食を共にすることで、修学旅行などと同じ様な特有の協同・共生の楽しさも体験したようであった。

4.3 A票(第4項及び第5項)～印象に残る事、改善点の提案

以下の2項目について自由記述して貰った。

『スタディツアーに参加してもっとも印象に残っていることは何ですか?』(a項)

『スタディツアーに参加して『こうであればもっと良かった』という改善点は何か?』(b項)

a項に質問に対し、23名から回答を得た。(回答の一覧は前述の添付資料-Cの通り、)

水俣へのスタディツアー参加者には、“水俣病”、(うたせ船に乗船しての)”釣り”、“瓶のリサイクル”などがキーワードとして挙がっており、対馬へのスタディツアー参加者においては、“絶滅危惧種(つしまやまねこ)”や”漂着ゴミ”がキーワードとなる事項に大きな印象を受けたようであった。

また、併せて対馬への参加者においては、宿舎での生活や食事(バーベキュー)なども大きな印象を残したようであった。

概して、学習面及び娯楽面の両面において、ほぼ企画し、狙ったポイントに的確に反応してもらえた様な回答であった。

b項については、5件の回答を得た。質問の意図とは少し異質な回答となっているが、対馬への参加者から出た貴重な意見としてここに記載し参考としておく。

- ・ (島などの本土から少し離れた)他の場所にも行きたかった。
- ・ 西表島のヤマネコも見たかった。(研究材料にして今後どうなるかを考えたい)
- ・ もっと長ければ良かった。/もう1泊して、もっとみんなで遊びたかった
- ・ 対馬の秘密をもっと知りたいと思った。中3になった今だからこそ、中2の時に知れなかったことを今知りたいと思うようになった。

4.4 A票(第6項)～学んだポイント

『スタディツアーに参加して、何かを学びましたか?』という質問に対し、“A群”、“B軍”の2つにグループの

A 群 項目	回答数		
	H25水俣	H25対馬	H27対馬
1. 水俣病の悲惨さ	4	0	0
2. ビン・缶のリサイクルの大切さ	2	0	2
3. ゴミの分別の方法と大切さ	1	1	1
4. 海や自然の豊かさ	3	1	1
5. 生物の多様性の重要性	0	6	6
6. 漂着ゴミの現状と対策	0	11	9
7. 島でのエネルギーの重要性	0	1	0
8. 島での廃棄物処理の経済性	0	1	3
9. 絶滅危惧種の保護方法と努力	0	9	7
合計	10	30	29

選択肢を用意し、複数項目を選択して貰った結果は左表及び次頁の表の通りである。

水俣市への参加者からは「水俣病の悲惨さ」、「びん、缶のリサイクルの大切さ」、「海や自然の豊かさ」などを学び、対馬への参加者からは、「生物の多様性の重要性」「漂着ゴミの現状と対策」「絶滅危惧種の保護方法と努力」などを学んだという回答を得た。

なお、平成25年度の対馬へのスタディツアーは小学生を対象とし、平成27年度においては中学生が対象となったが、回答結果に大きな差は見られず、上記の通りの結果であった。

B 群 項目	回答数			
	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計
1.(行事などの)参加することの大切さ	0	4	6	10
2.みずから進んで行動することの大切さ	2	5	3	10
3.他の人と協力して行動することの大切さ	2	4	8	14
4.自分の気持ちや考えを伝えることの大切さ	1	3	7	11
5.環境ばかりでなくものごとを深く広く考えることの大切さ	2	3	1	6
6.このまま放置すれば“環境”は大変なことになる	3	6	5	14
7.環境問題では自分にも責任の輪の中に入っている	3	3	3	9
8.人や動物は眼に見えない所で広く、深くつながっている	2	6	5	13
9.自分が住む宇部の街に関心を持つようになった	1	2	2	5
10.特に学んだことはない	0	0	0	0
回答項目数合計	16	36	40	92
回答者数	4	11	10	25
1人当選択回答数	4.0	3.3	4.0	3.7

ST参加者の”学んだ”事項(項目)は行先に関わらずほぼ均等に幅広く分散している。

キーワードとしては、対馬や水俣への関心、リサイクル、廃棄物、生物多様性、希少動植物、率先垂範などの項目に25名の回答者の40%以上に該当する2ケタの回答が集まった。

回答項目数を回答者数で割った1人当たりの項目数を見てみると、H25水俣参加者が4項目/人、H25対馬参加者が3.6項目/人、H27対馬参加者が4項目となり、全体では、ツアーによる差や、年齢層による差が出ていないが、項目間では、同じ対馬へのツアー参加者でH27年度の参加者(中学生)の回答はH25年度(小学生)の回答に比して第1項(参加することの大切さ)、第3項(協調の大切さ)第4項(意思伝達の大切さ)どの点で、ポイントが多く、年長者らしさが出た結果が出ていると云える。

4.5 A票(第7項)～STで学び現在生かされているポイント

スタディツアー参加後に行うようになった考え方や行動の変化を問うべく、『スタディツアーで学んだことは現在生かされていますか?』という質問を行った。

これに対するST参加者の意見は次の通りである。

項 目	回答数(25名)				比率	
	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計	全項目中	回答者
“対馬”や“水俣”に関心を持つようになった	2	6	5	13	15%	52%
“廃棄物”に関心を持つようになった	1	5	5	11	13%	44%
“リサイクル”に関心を持つようになった	3	3	4	10	11%	40%
“生物多様性”に関心を持つようになった	0	3	4	7	8%	28%
“漂着ごみ”や「ごみのポイ捨て」に関心を持つようになった	2	7	6	15	17%	60%
“生きている数の少ない貴重な動物や植物”に関心を持つようになった	1	4	6	11	13%	44%
一緒に行った友達・仲間と親しくなりいまでも連絡を取り合っている	1	3	3	7	8%	28%
色々な事が率先して出来るようになった	0	0	2	2	2%	8%
表面上だけでなく少し深くものごとを考えられるようになった	1	2	4	7	8%	28%
環境問題に関心を持ち以下のようなことを行うようになった	0	2	3	5	6%	20%
【注記】①全項目中比率＝合計回答数/88回答x100			合計	88	100%	

②回答者比率＝合計回答数/25人x100

表に見る如く、全回答者(25名)の半数以上の人達が、スタディツアーの訪問先(水俣や対馬)に関心を持つ様になり、ごみのポイ捨てに関心を持つ様になったと答えている。

また、“廃棄物”、“リサイクル”、“貴重(希少)生物”などにも学んだ事が活かされているポイントとして高い選択率を得ている。

意識が実際の行動にどのように表れているかを知るべく、選択肢の最下段に『環境問題に関心を持ち以下のようなことを行うようになった』という項目(前表の最終行)を入れて回答して貰った結果は以下の通りである。

項目	回答数				比率
	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計	
a字部市の関連事業への参加・関心	0	1	1	2	4%
b飲料容器再使用	0	4	1	5	10%
c裏紙使用	0	4	3	7	15%
d過剰包装辞退	0	1	0	1	2%
e生ゴミ減量	0	1	0	1	2%
f物の流さない	0	3	0	3	6%
gゴミの分別を確実に行う	1	4	2	7	15%
hポイ捨てしないこと	2	4	6	12	25%
i不要照明消灯	2	3	4	9	19%
j無農薬野菜の購入	0	2	1	3	6%
kその他()	0	0	0	0	0%
			合計	48	100%

具体的な行動として例示した11項目の内、前段で”活かされている”項目として選択の多かった”ごみのポイ捨てをしない”というのが、リンクされて最も多い回答を得た。

次に”不要な照明を消す”や”裏紙の使用”などに比較的多くの回答が集まった。

全体を概観すると、対馬や水俣へのスタディツアーに参加して、旅行先で見聞した環境に関連する諸事項・諸問題とともに、一般的な”環境”への意識や関心度が大きく向上していると思える。

4.6 B票(第8・9・10項)～STで学び現在活かされているポイント

B票は子供たちの保護者へのアンケートであるが、第8項～第10項の質問内容及び回答は以下の通りである。

第8項質問『あなたはお子様と一緒にスタディツアーに参加されましたか?』

第9項質問(はいと答えた方に)『あなた自身がスタディツアーに参加して良かったと思いますか?』

第10項質問『あなたはお子様をスタディツアーに参加させて良かったと思いますか?』

項目		H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計
回答者数		4	11	10	25
第8項	STに保護者として参加	4	4	0	
第9項	保護者として参加して良かった	4	4	0	
第10項	子供達を参加させて良かった	4	11	10	25

H25年度の水俣市へのスタディツアーは保護者同伴を条件としたツアーであり、H25年度のスタディツアーは必ずしも保護者同伴を条件とせず参加者を募集した。また、H27年度の対馬へのツアーにおいては、対象者が中学生であることから子供達単独参加の募集とした。

以上の背景のもとにアンケートした所、平成25年度のツアー（水俣及び対馬）に参加した保護者全員が”保護者として参加して良かった”、”子供たちを参加させて良かった”と回答した。

これにより、実際にスタディツアーに参加した子供及び同伴した保護者の全員が”行って良かった”と考えている事になる。

4.7 B票(第11項)～STに参加して良かった点

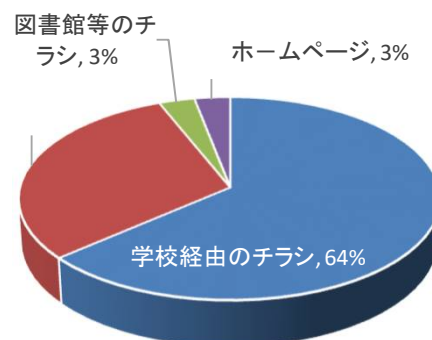
項目	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計	比率
① 夏休みの良い思い出となった	4	10	9	23	33%
② 色々楽しめた	2	6	4	12	17%
③ 他人の方々と親しくなった	2	3	4	9	13%
④ 子供が環境に関心を持つ様になった	2	8	5	15	22%
⑤ 大人も環境に関心を抱く様になった	2	4	1	7	10%
⑥ 自分が住む街(宇部)への関心が強くなった	0	1	1	2	3%
⑦ 内容が良くなかった	0	0	0	0	0%
⑧ 行程がきつかった	0	0	1	1	1%
⑨ もっと色々な企画が欲しかった	0	0	0	0	0%
⑩ 費用が割高と感じた	0	0	0	0	0%
⑪ その他()	0	0	0	0	0%
合計	12	32	25	69	100%

①項～⑥項に肯定的な理由が列挙してるが、この①項～⑥項の合計が98%であった。否定的な意見としてH27年度の対馬ST参加者の”行程がきつかった”という意見があった。炎天下で盛沢山のスケジュールをこなした所から子供から保護者に漏らした感想として理解できる意見であった。ここでは、保護者の目から見ても”子供が環境に関心を持つ様になった”という項目に15ポイント(22%)の意見・感想が寄せられた事に注目しておきたい。

4.8 B票(第12-1項)～STの広報

『広報の方法は何が最も皆さん方の目に入りやすいですか?』と尋ねた結果は以下の通りであった。

項目	ポイント	比率
学校経由のチラシ	21	64%
宇部市広報	10	30%
図書館等のチラシ	1	3%
ホームページ	1	3%
合計	33	100%



前頁の表及びグラフに見る広報の方法としては、学校経由のチラシが圧倒的(64%)であり、これに宇部市の'広報分(30%)を加えると合計で94%に達し、アンケートの結果からはこの2方法で十分という事になる。しかしながら、スタディツアーの実施時及び終了直後に口頭にて聴取した範囲では、1学期終了時(夏休み開始前)には学校から多数のチラシが配られるので、見落としがちとの意見もあった。参考ながら、宇部市地球温暖化対策ネットワークが独自に行ったスタディツアー事業の広報では、学校経由の広報は使えず、これら以外の様々な方法で広報を行ったが、参加者の3割の方々が図書館に置かれたチラシを見て応募したという回答を得ている。

4.9 B票(第12-2項)～STの実施時期

『スタディツアーの実施時期は何時が望ましいとお考えですか?』という問いに対する選択肢として、夏休み中/夏休み以外の連休中/その他/平日/土曜/日曜日/祝日/金曜土曜日/その他を用意したが25名の回答者全員が『夏休み中』という回答であった。

当方としては、これに続き、平日/土曜/日曜日/祝日/金曜土曜日の区分にも回答を求めた積りであったが、こちらの区分に関しては全員が無回答だったので、設問の仕方や回答選択肢の並べ方に課題残した。

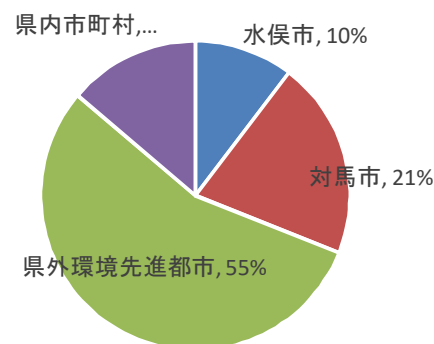
これも、参考までにスタディツアー実施直後の口頭ヒアリングの状況を述べておくと、子供のみの場合は問題ないが、保護者同伴となると土・日のいずれかが入るのが望ましいという意見がよく聞かれた。

4.10 B票(第12-3項)～STの行先

『スタディツアーは、今まで宇部市と水俣市、対馬市との連携により両市に行きましたが、今後の行き先としてどこが望ましいとお考えですか?』との問いに対する回答は以下の通りであった。

項目	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計	比率
水俣市	1	1	1	3	10%
対馬市	1	2	3	6	21%
県外環境先進都市	3	6	7	16	55%
県内市町村	0	4	0	4	14%
合計	5	13	11	29	100%

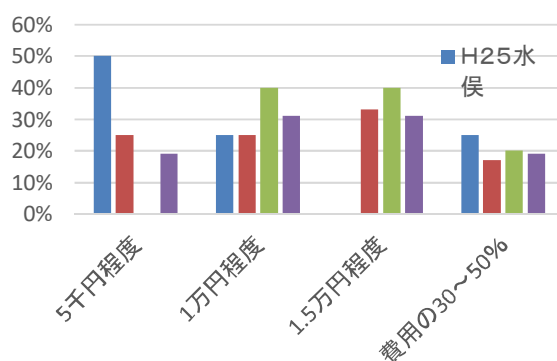
設問として「今後の行き先としてどこが望ましいか」と尋ねているので、「県外環境先進都市」が半数を越えた。しかし一方で水俣・対馬のいずれかを選択したポイントも31%となった。また、県内の市町村を選択した回答は皆無だった。これは遠くの見知らぬ土地や個人では連れて行くことが難しい地域・場所を望んでいると想定される。



4.11 B票(第12-4項)～STの参加費用負担

『スタディツアーはおよそ50～70%程度の公的な補助のもとに実施していますが、皆様方の負担額はどの程度が参加し易いとお考えですか?』という問いに対する回答は以下の通りである。

項目	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計
実負担額	大人	12,000	20,000	20,000
	子供	8,000	14,000	
5千円程度	50%	25%	0%	19%
1万円程度	25%	25%	40%	31%
1.5万円程度	0%	33%	40%	31%
費用の30～50%	25%	17%	20%	19%
合計	100%	100%	100%	100%

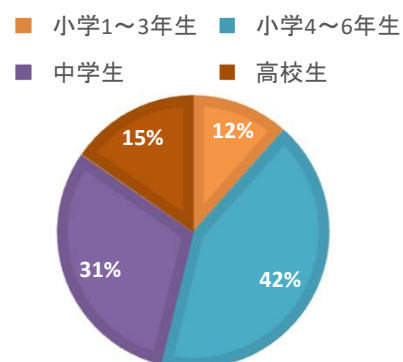


上表に示す通り、それぞれのスタディツアー参加者の負担金額は、平成25年度水俣ST(1泊2日)参加者が、大人:12,000円、子供:8,000円、同年の対馬ST(2泊3日)参加者は大人:12,000円、子供:8,000円、そして平成27年度の対馬ST参加者は20,000円(2泊3日)であった。それぞれのスタディツアー参加費用が異なるため、参加し易いと思う金額にも多少の差が出たが、概ね1万円～1万5千円程度が、(希望に沿った)妥当な負担金と思われる。尚、この金額レンジは実際のスタディツアー参加費用の30～50%に相当するから、それを踏まえると、約80%の参加者がこの金額レンジと答えたことになる。

4.12 B票(第12-5項)～ST参加年齢層

『スタディツアーの参加年齢層は次のどれがふさわしいと思いますか?』という問いに関する回答は次の通りであった。

項目	H25水俣	H25対馬	H27対馬	合計	合計
実施済年齢層	小学生	小学生	中学生	(人数)	(比率)
小学1～3年生	0	3	0	3	12%
小学4～6年生	4	3	4	11	42%
中学生	0	4	4	8	31%
高校生	0	2	2	4	15%
合計	4	12	10	26	100%



表やグラフに見る如く、スタディツアーに参加する年齢層は小学校高学年から中学生という回答が大半(73%)を占めた。

スタディツアーが”スタディ”であることや、引率の難易度、参加者の行動の自律性などを勘案すると主催者側の考えに近く妥当な回答が得られたと思える。

4.13 B票(第13項)～自由意見記述

『これからもスタディツアーを続けて行く上で、こうあれば良いと思えるご希望、ご意見を自由に記述下さい。』と問い掛けて意見・コメントを求めた所、25名から返送された回答書中の約半数の13名から貴重な意見が届いた。以下にこれらの意見の概要を列挙する。

- ・実施日の設定が何回かあると都合をつけやすい。
- ・海岸ゴミ拾いは実際に行った方が良い。
- ・他の大規模イベントに参加する形で行い、ボランティアをする人々の様子も見た方が良い。
- ・子供の学習面で熊本等九州や東北の被災地等をも良いと思うし、対馬のスタディツアーに参加させて貰ったので絶滅危惧種というなら西表ヤマネコの西表も良い。西表島や東北は少しお金が掛かり過ぎるが、子供には色々体験して欲しい。
- ・普段体験できないような旅行が良く、対馬の体験は子供にとって、とても良かった。
- ・福島の子供の受け入れも良い。
- ・対馬へのスタディツアーは親子ふれあいのとても良い時間だった。
- ・安全対策なども配慮されていて安心して過ごすことが出来て感謝しております。
- ・特に希望や意見はありませんが、このスタディツアーにまたいつか参加できるといいなと思います。子供は来年高校生になりますが……。
- ・特にありませんが、参加させて頂けた事は良かった。
- ・少人数の方が色々良い点があるでしょうが20名程度で行けたら、もっと友達が出来て良いかなと思う。
- ・親の参加もあればいいなと思いました。
- ・他地域の方との交流や見学・学習などを通じて広い視野で見ることが出来る様になりました。
- ・他の子供たちと交流し協力してできることがあると良い。
- ・低学年の参加ながら学ぶことが多く、興味を持つ範囲も広がった。
- ・低学年は保護者同伴の1泊2日程度、高学年や中学生は子供のための2泊3日程度が望ましい。
- ・夏休みは行事が多い、日帰りでもよいのでGWや春休みも参加しやすい？

5 まとめ

平成25年度の水俣市及び対馬市へのスタディツアーに始まり、翌26年度には逆に両市より宇部市にスタディツアーの一行を受け入れた。そして、平成27年度には再び対馬市を訪れ、本年は対馬市から高校生を受け入れて、スタディツアーも来年度は4年目も迎える。

各年度のスタディツアーの実施毎にアンケートを取ってきたが、本年度は少し時間をおいてじっくりと考えた時にスタディツアーはどの様に位置づけられ、スタディツアーに参加した意義、効果は十分に発揮してしてるのかという視点で、過去のスタディツアーに参加した子供達及びスタディツアーに参加しなかった方々を含めた保護者の皆様にもアンケート状を送付し、意見を伺った。

それぞれの質問項目に対する回答は既に述べた通りであるが、全体として参加者には楽しく参加して貰い、保護者の方々には参加の意義を理解し、子供たちに幅広く深いところで”環境”というものに対して影響を及ぼしていると判明した。今後、効果が一層発揮出来る様に、スタディツアー事業を継続し、工夫を重ねて、ツアーそのものの(教育)効果の一層の向上が望まれるところである。